

優秀賞

もしも殺処分が0になったら

小豆島町立星城小学校六年 寺木 彩芽

私の家では、私が生まれる前から犬を飼っています。二年生の時から、ずっと犬がそばにいます。たくさんの犬との思い出とともに、私は大きくなりました。だから、私は犬が大好きです。私が学校から帰ると、いつもびよんぴよんはねて、お出迎えしてくれます。まるで「おかえり」と言ってくれているような気がして、私も「ただいま」と言っています。しかし、もう老犬のためか、最近は、眠っている時間が多くなってきました。私の家の犬は、十六さいです。本で調べると、犬の十六さいは、かなり高れいだということが分かりました。長生きしてくれてとてもうれしいです。そして、これからももっと長生きしてほしいです。あと、

どれくらいいっしょにいられるかは分かりません。けれど、大切な家族だから、ずっとずっといっしょにいたいです。そのために、私に何ができるかを調べようと思いました。まずは、知ることが大切だと思ったからです。犬に関係する本をたくさん読んで勉強しました。すると、本を読んでいるうちに気になる言葉が出てきました。それは「殺処分」です。

殺処分とは、「保健所や動物愛護センターに引き取られた犬のうち、新しい飼い主が見付からなかった場合などに人の手によって命を終わらせること」です。私の大好きな犬が、人間に殺されてしまうという事実を知って、心がぎゅっとしめつけられる思いがしまし

た。そして、犬を守るために、もっと知りたいという思いが強くなりました。飼い主が犬を捨てる理由で多いのは、引越しやしつけができないということだそうです。人間の都合で犬の命をうばうなんて、私には考えられません。

このことを知った私は、犬についてだけでなく、人と犬との関係について知りたいと思うようになりました。調べてみると、警察犬や介助犬など、人は犬と協力したり助けられたりして生活していたことが分かりました。なぜ、人は犬に守られ、助けられているのに、簡単に犬を捨ててしまうのでしょうか。殺処分をなくすことは、できないのでしょうか。何かできることはないかと、さらに本を読みました。そして、二つのことを知りました。

一つ目は、保護施設から犬をむかえることです。保護施設では、何らかの理由で飼い主が飼育できなくなった犬や野良犬などを新しい家族にじょうとするための世話をしています。私もテ

レビで見たことがあります。たくさん
のボランティアの方が、犬の命を守る
ために働いていました。そして、じよ
うと数を増やしているそうです。ペッ
トショップで買うだけでなく、このよ
うな方法もあるということをたくさん
の人に伝えたいです。

二つ目は、殺処分についてたくさん
の人に知ってもらうことです。二期期
のはじめ、学校で集会をした時に、先
生が犬の殺処分の絵本を読み聞かせて
くれました。大好きな家族に捨てられ、
それでも最後まで家族がむかえに来て
くれることを信じながら命がつきてい
く犬の話です。正直、聞くのがつらか
ったです。泣いている子もいました。
でも、これが現実なのです。この本の
内容をもっとたくさんの人に伝えるこ
とで、きつと捨てられてしまう犬は減
ると思います。

私には、夢があります。それは、ド
ッグトレーナーになることです。犬の
ことでなやんでいる人たちの手伝いを
して、少しでもたくさん犬と人をつ
なぎたいと考えています。保護施設の

犬が新しい家族にむかえられるため
にも、しつけは大切だと思います。じよ
うと会に参加して、里親を探す手伝
いもしたいです。そして、多くの犬に
のすばらしさを伝えていきたいです。
人間は、どんな犬種をペットとしてむ
かえるか、どんな性格の子がよいか
などを自分で選ぶ事ができます。けれど、
犬は飼い主を選べません。だからこそ、
飼い主は、犬を幸せにする責任がある
と思います。

いぬは、私にとって心の支えです。
かけがえのない大切な存在です。私は、
犬からたくさん幸せをもらいました。
だから、私も犬の心の支えになりたい
のです。まずは、飼っている犬から幸
せにしていきます。十六さいになつた
うちの犬は、昔のようにびよんびよん
はねて私をお迎えしてはくれません。
けれど、私が帰ると、寝ていても起き
てふりむいてくれます。体はおとろえ
てきても、心はつながっていると感じ
ています。だから、私は幸せです。家
族も同じ気持ちです。心と心がつな
がれば、犬は人間にとってかけがえのな

いパートナーになります。殺処分され
ていく犬たちの命だって、本当は、だ
れかを幸せにすることが出来る命な
のです。そして、だれかに幸せにして
もらえる命なのです。全ての犬と人間が
助け合い、支え合える日を目指して、
私は自分の夢につき進んでいきます。